

目 次

I 総 括	
1 組織概要	
(1) 組織と所掌事務	1
(2) 職員の定数及び現員数	1
2 予算概要	
(1) 平成26年度歳入決算	2
(2) 平成26年度歳出決算	2
3 主要財産	
(1) 土地	3
(2) 建物	3
(3) 漁業指導調査船	3
II 試験研究業務(平成26年度の試験研究結果)	
1 水産業の経営高度化・安定化のための研究開発	
(1) ワカメ等海藻養殖の効率化システムの開発	
①ワカメ自動間引き装置の開発(企画指導部)	5
②定置船搭載型ワカメ刈取り装置の開発(企画指導部)	10
③陸上刈取り装置の開発(企画指導部)	13
(2) 漁業経営の体質強化のための研究(企画指導部)	18
(3) 本県主要水産物のマーケティングに関する研究(ホタテガイ、カキ)(企画指導部)	21
2 全国トップレベルの安全・安心を確保する技術の開発	
(1) 二枚貝等の毒化予測の開発、及びシストの分布、二枚貝養殖漁場の環境評価(漁場保全部)	
	23
(2) カキのノロウイルス汚染による食中毒事故の発生リスク低減に関する研究(漁場保全部)	
	29
3 生産性・市場性の高い増養殖技術の開発	
(1) 秋サケ増殖に関する研究	
①増殖・管理技術の開発・改善(漁業資源部)	32
②秋サケ回帰予測技術の向上(漁業資源部)	37
(2) アワビ等の種苗放流に関する研究	
①種苗生産の安定・低コスト化技術の開発(増養殖部)	44
(3) 海藻類養殖の効率生産化に関する研究(増養殖部)	
	49
(4) 介類養殖の安定生産に関する研究	
①ホタテガイ・ホヤ等の安定生産手法の検討(増養殖部)	53
②マガキの新しい生産技術導入の検討(増養殖部)	62
4 水産資源の持続的利用のための技術開発	
(1) 海況変動を考慮した漁海況予測技術の開発(漁業資源部)	
	68
(2) 地域性漁業資源の総合的な資源管理に関する研究	
①主要底魚類の資源評価(漁業資源部)	74
②東日本大震災以降の漁船漁業の現状評価と、資源評価結果に基づく資源利用モデルの導入(漁業資源部)	92
(3) 回遊性漁業資源の利用技術の開発(漁業資源部)	
	96
(4) 震災による磯根資源への影響を考慮したアワビ・ウニ資源の持続的利用に関する研究(増養殖部)	
	105
5 いわてブランドの確立を支援する水産加工技術の開発	
(1) 高次加工を目指した加工技術開発に関する研究	
①通電加熱技術等による省エネ・省力化型加工製造技術開発及び実証研究(利用加工部)	112
(2) 地先水産資源の付加価値向上に関する研究	

①短期蓄養による漁獲物の付加価値向上技術の開発（ウニ）（利用加工部）	114
②地先水産資源を用いた加工品試作開発（利用加工部）	116
（3）県産水産物の品質に関する研究	
①簡易・迅速品質評価技術開発（利用加工部）	118
（4）県産水産物の素材特性に関する研究	
①原料特性に関する調査研究（利用加工部）	123
6 豊かな漁場環境の維持・保全のための技術開発	
（1）漁家所得の向上と経営安定を目指した養殖漁場の環境収容力に関する研究（漁場保全部）	130
（2）適正な漁場利用を図るための養殖漁場の底質環境評価（漁場保全部）	136
（3）県漁場環境保全方針に定める重点監視水域（大船渡湾・釜石湾）のモニタリング及び広報（漁場保全部）	141
（4）養殖ワカメ安定生産の基礎となるワカメ漁場栄養塩モニタリング及び関係者への広報（漁場保全部）	146
III 情報・広報業務	
1 学会誌投稿	148
2 口頭発表	148
3 成果報告会	150
4 出願・取得した特許等知的財産	151
5 広報	151
6 新聞・テレビ・ラジオ等報道	153
7 施設利用	154
IV 指導・相談業務	
1 委員、審査員等の派遣	155
2 大学等との交流	156
3 職員派遣	157
4 講習、技術研修会等	162
5 研修受け入れ	164
6 指導、相談	165
7 水産加工開放実験室利用状況	170
8 イベント等への出展実績	171
V 水産業改良普及指導業務	
1 水産業改良普及事業の推進	172
2 漁業担い手育成推進費実施結果	172
3 普及指導員の研修	172
4 行政機関、漁業協同組合等との連携による普及活動の指導・支援	173
VI 漁業指導用通信業務	
1 沿革	174
2 平成26年度通信業務概要	174
3 平成26年度釜石無線局の通信業務取扱実績	176
4 その他（表彰・広報関係等）	176
資 料	
1 沿革	177
2 職員名簿	178

※平成26年3月12日に制定した「岩手県水産試験中期計画（平成26年度～30年度）」の構成を基に編集した。